文献目録
イタリア語

文法書・学習書

- 長神悟 (2018)『イタリア語の ABC 改訂版』白水社.
- 入門から中上級まで、イタリア語の文法を一通りカバーした学習書。ただし独学よりは教室向け。
- 菅田茂昭 (2006)『超入門イタリア語』大学書林.
- 超入門とあるが、こちらも文法を一通りカバーしている。厚さの割に範囲が広く、詳細な記述があるが、そのために完全な初心者には難解。
- 坂本鉄男 (2009)『現代イタリア文法　新装版』白水社.
- 日本語で読める唯一の本格的な文法書。ただしオリジナル版の刊行は 1979 年で、下記 Battaglia & Pernicone (1978)の第一版（1960 年）を下敷きにしており、かなりの時間が経っていることには注意が必要。
- Renzi, Lorenzo et al. (2001). *Grande grammatica italiana di consultazione.* 2a ed. Bologna, il Mulino.
- 総勢 38 人の著者による 3 巻構成の大著（第一版は 1988-1995）。生成文法の知見を下敷きにしており、特に前提知識がないと読解はたいへん困難。それでもイタリア語の文法を研究するのであれば必ず確認すべき、イタリア語文法書の金字塔。
- Salvi, G. & Vanelli, L. 1992. *Grammatica essenziale di riferimento della lingua italiana*. Firenze: De Agostini-Le Monnier.
- Grande grammatica と同時期に、著者グループにも参加する 2 名によって書かれた文法書。基本的な統語構造と特に動詞の形態についてまとまっているが、今参照するのであれば下の Nuova grammatica がおすすめ。
- Giampaolo Salvi e Laura Vanelli. (2004). *Nuova grammatica italiana*. Bologna, il Mulino
- 実質的には Grammatica essenziale の改訂版。Grande grammatica と同様に生成文法を背景にしており前提知識を要求するが、比較的記述がコンパクトにまとまっており、最初の章に基本的な用語・概念についてもわかりやすい解説がある。Grande grammatica を読むための準備としても有用。
- Andorno, C. (2003). *La grammatica italiana*. Milano: Bruno Mondadori.
- Nuova grammatica よりもさらに丁寧な解説や練習問題で生成文法を下敷きにした文法記述について説明した、文法書というよりも教科書。現代的な文法記述の入門におすすめ。
- Serianni, L. (1988). *Grammatica italiana*, Torino, Utet.
- Grande grammatica 初版第一巻と同年刊行だがまったく毛色の違う、伝統的・学校的な文法書の金字塔。生成文法のような前提知識を要求せず、また記述する範囲は後半かつ詳

細。研究のためではなくイタリア語の運用に関する疑問点について参照するだけなら、こちらが役に立つことも多い。

- Patota, G. (2006). *Grammatica di riferimento dell'italiano contemporaneo*. Novara: Garzanti Linguistica.

- 同様に伝統的・学校的な文法書。一般読者向けに書かれており、外国語としてイタリア語を学習する者にも読みやすい平易なイタリア語で書かれている。かなり大部の Serianni と比べて手軽にアクセスできる文法書ならこちら。

- Maiden, M. & Robustelli, C. 2014. *A Reference Grammar of Modern Italian*. London/New York: Routledge.

- 英語で書かれたイタリア語文法書。

- Schwarze, C. 1988. *Grammatik der italienischen Sprache*. Berlin: De Gruyter.

- ドイツ語で書かれており、さらに語彙機能文法に基づいているために人を選ぶが、Serianni、Grande grammatica と同年に刊行されてイタリア語を世界で最も文法記述の豊富な言語に押し上げた文法書。2009 年にイタリア語版が出ている（Schwarze, Christoph. 2009. *Grammatica della lingua italiana*. Roma: Carocci）。

- Graffi, G., & Scalise, Sergio. (2002). *Le lingue e il linguaggio*. Bologna: Il Mulino.

- イタリアでもっとも普及している言語学の教科書。イタリア語の分析に直接役立つかはともかく、イタリア（語）から言語学をみる視点を把握するために有用。

- Lubello, S. (2016). *Manuale di linguistica italiana*. Berlin: De Gruyter.

- 比較的近年に出た、こちらは教科書ではなく研究者向けの概説書。かなり難解だが、イタリア語について研究するのであれば興味を持っている分野の章は読んでおきたい。

- Battaglia, S. & Pernicone, V. (1978). *Grammatica italiana,* nuova ed. Torino, Loescher.
- Dardano, M. & Trifone, P. (1985). *La Lingua Italiana.* Zanichelli.
- Dardano, M. & Trifone, P. (1997). *La nuova grammatica della lingua italiana.* Bologna, Zanichelli.
- Prandi, Michele e De Santis, Cristina (2011). *Le regole e le scelte, Manuale di linguistica e di grammatica italiana,* (ed. seconda). Utet
- Orvieto, Giorgio R. e Moretti, Giovanni B. (1984). *Grammatica italiana,* Vol.1, Perugia, Benucci.
- Proudfoot, A. & Cardo, F. (2013). *Modern Italian Grammar.* London and New York, Routledge.
- Sensini, Marcello. (1997). *La grammatica della lingua italiana.* Milano, Oscar Mondadori.
- Serianni, L. (1991). *Grammatica italiana: Italino comune e lingua letteraria.* Torino, Utet.
- Serianni, L. (1997). *Italiano.* Milano, Garzanti Editore.
- Serianni, L. & Castelvecchi, A. (1991) *Grammatica italiana: italiano comune e lingua letteraria* [2a ed]. Torino, UTET.
- Trifone, P. e Palermo, M. (2000). *Grammatica italiana di base.* Bologna, Zanichelli.

日本語文献

1. 音声学

- 岡田由美子(1992).「s の発音」.「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.27-40
- 郡史郎(1992).「イタリア語のイントネーション：朗読文の文末２語の音調と持続時間の特徴」.「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.56-74
- 郡史郎(1993).「イタリア語の韻律的特徴：音の長さを規定する要因について」.「池田廉教授停年退官記念論文集」刊行準備委員会編.『池田廉教授停年退官記念論文集』「池田廉教授停年退官記念論文集」刊行準備委員会, pp.185-208
- 郡史郎(1998).「ことばの祭典」.『最もメロディアスな言語』.大修館書店, [特集：KOTOBA のオリンピック：19 競技による], 27 巻, 5 号, pp.18-21
- 榊原志代(2008).「対人関係を反映する音声的特徴について：イタリア語の挨拶 buongiorno の場合」『音声研究』12 巻, 3 号, pp.59-75 https://www.jstage.jst.go.jp/article/onseikenkyu/12/3/12_KJ00007631966/_pdf/-char/ja
- 菅田茂昭(1991).「ロマンス語における口蓋化の問題点：イタリア語・サルジニア語を中心に」『ロマンス語研究』24 号, pp.119-123 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/024/studrom_024_012.pdf
- 津田悠一朗(2014).「現代共通イタリア語の音節構造とリズム」『イタリア学会誌』64 巻, pp.69-87 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/64/0/64_KJ00009595806/_pdf/-char/ja
- 藤村昌昭(1984).「五線譜に表現されたイタリア語のアクセント構造」『大阪外国大学学報』66 巻, pp.81-106 https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/81018/joufs_66_081.pdf
- 藤村昌昭(1986).「イタリア語における clitic の機能と構造：同音性によるオーヴァーラップ現象を中心に」『ロマンス語研究』19 号, pp.71-83 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/019/studrom_019_008.pdf
- 藤村昌昭(2002).「Opacità の不透明性について：イタリア語における音韻の形態統制」『イタリア学会誌』52 巻, pp.44-80 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/52/0/52_KJ00003723271/_pdf/-char/ja
- 森田学(2008).「歌唱イタリア語の発音をめぐって：美しいイタリア語の発音にむけて」『東京音楽大学研究紀要』32 巻, pp.113-128 https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/record/866/files/KJ00005444006.pdf
- 渡辺明子(2013).「イタリアベルカント歌唱法における日本語歌唱の表現：渡辺明子ソプラノリサイタルを通しての考察」『聖徳大学研究紀要』24 巻, pp.107-114 https://seitoku.repo.nii.ac.jp/records/129

2. 音韻論

- 上野貴史(1992).「イタリア語の語尾切断現象(1)：動詞の語尾切断」『大阪女子短期大学紀要』17 巻, pp.79-87 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45411/files/30297
- 上野貴史(1993).「イタリア語の語尾切断現象(2)：名詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞の語尾切断」『大阪女子短期大学紀要』18 巻, pp.51-59 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45412/files/38184
- 上野貴史(1993).「イタリア語における切断現象と使用頻度」『ニダバ(NIDABA)』22 巻, pp.103-111 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44350/files/9594
- 上野貴史, 谷岡弘二(2005).「クラスター分析によるイタリア語冠詞前置詞の時系列的考察」『ニダバ(NIDABA)』34 巻, pp.20-29 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44354/files/10670
- 上野貴史, 谷岡弘二(2006).「イタリア語冠詞前置詞の時系列的考察：冠詞前置詞 a/ da/ di/ in」『ニダバ(NIDABA)』35 巻, pp.65-74 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44355/files/29660
- 篠木平治(1994).「イタリア語音韻論粗描」『群馬県立女子大学紀要』15 巻, pp.141–159. https://gpwu.repo.nii.ac.jp/records/216
- 鈴木信五(1981).「フィレンツェ型とローマ型のイタリア語：母音間の単子音[ʃ]の音韻解釈について」『イタリア学会誌』 30 巻, pp.59–74. https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/30/0/30_KJ00003717640/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1968).「イタリア語の絶対最上級副詞について－ボッカチオ『デカメロン』を中心として－」『日本言語学学会機関誌：言語研究』53 号, pp.117-118 https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/1968/53/1968_53_117/_pdf/-char/ja

3. 形態論

- 青木洋一郎(2014).「イタリア語における再帰動詞について」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュール』6 巻, 1 号, pp.169-180
- 猪浦道夫(1989).「イタリア語の動詞副詞結合」『イタリア学会誌』39 巻, pp.177-196 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/39/0/39_KJ00003717814/_pdf/-char/ja
- 上野貴史(1995).「イタリア語における合成語の構造：ハイフン語と主要部」『言語文化学会論集』5 巻, pp.21-43 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45631/files/30375
- 上野貴史(1996).「イタリア語における《N+N》複合語の生成：Head と語形性レベル」『言語文化学会論集』7 巻, pp.21-42 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45407/files/30104
- 上野貴史(1997).「イタリア語複合名詞と英語表現」『大阪女子短期大学紀要』22 巻, pp.43-50 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45789/files/30450
- 上野貴史(1998).「語彙部門におけるイタリア語複合語：「名詞＋形容詞／形容詞＋名詞」複合語から」『ロマンス語研究』31 号, pp.21-30 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45487/files/736
- 上野貴史(1998).「複合語における複数形態と生成構造」『イタリア学会誌』48 巻, pp.181-202 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/48/0/48_KJ00003717989/_pdf/-char/ja

- 上野貴史(2000).「「古典語的合成語」の語形成過程について」『イタリア学会誌』50 巻, pp.49-75 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/50/0/50_KJ00003718077/_pdf/-char/ja
- 上野貴史(2010).「イタリア語における名詞接尾辞 -ATO / -ATA」『ニダバ(NIDABA)』39 巻, pp.58-67 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44356/files/11292
- 久保博(2021).「イタリア語のアスペクト」『東京外国語大学語学研究所論集』26 号, pp.73-29 http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/26/jilr26_sp_Italian15_Kubo.pdf
- 古浦敏生(1965).「イタリア語における否定表現＜特集＞」『広大言語』5 巻, pp.6-9 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/46218/files/4727
- 古浦敏生(1981).「イタリア語の語形成に関する一考察：作家名とその形容詞形について」『南欧文化』7 号, 文流, pp.126-137
- 古浦敏生(1981).「イタリア語の語形成に関する一考察：都市名とその形容詞形について」『広島大学文学部紀要』44 巻, pp.295-317
- 古浦敏生(1983).「イタリア語における動詞活用語尾に関する史的考察：直説法現在＆接続法現在 2 人称単数形を中心として」『言語学論叢』関本至先生古稀記念論文集, 浮水社, pp.159-188
- 古浦敏生(1994).「ダンテ『神曲』における条件法の形態について」『ロマンス語研究』27 号, pp.25-34 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/027/studrom_027_003.pdf
- 菅田茂昭(1988).「イタリア語およびロマンス語における動詞＋名詞型の合成名詞」『ロマンス語研究』21 号, pp.25-30 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/021/studrom_021_004.pdf
- 谷川みずき(2020).「イタリア語の自他交替」『東京大学言語学論集電子版(eTULIP)』42 巻, eTULIP 号, pp.169-182 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/54933
- 土屋美子(2006).「ポリツィアーノ『スタンツェ』にみられる言語的特徴について：動詞の形態論を中心に」『イタリア学会誌』56 巻, pp.167-192 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/56/0/56_KJ00004401030/_pdf/-char/ja
- 長神悟(1988).「イタリア語派生法の一問題：接尾辞ゼロ動詞派生名詞について」『イタリア学会誌』38 巻, pp.37-51 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/38/0/38_KJ00003717790/_pdf/-char/ja
- 布施温(1991).「イタリア語動詞活用の体系づけとコンピューターによる活用表の作成」『愛知県立大学外国語学部紀要、言語・文学編』23 号, pp.295-312
- 向井華奈子(2015).「イタリア 16 世紀の文法記述における接続法半過去と条件法現在の形態」『イタリア学会誌』65 巻, pp.147-166 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/65/0/65_147/_pdf/-char/ja
- 山本真司(2014).「イタリア語における狭義の再帰動詞と形式的再帰動詞は他動詞なのか」『東京外国語大学語学研究所論集』19 号, pp.71-84 http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/19/jilr_19_sp_note_Yamamoto.pdf

4. 語彙論

- 青木洋一郎(2010).「『デカメロン』における domandare の用法を巡って」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュール』4 巻, 1 号, pp.249-261
- 秋山余思(1965).「『新曲』の脚韻に於ける語彙」『イタリア学会誌』13 巻, pp.80-85 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/13/0/13_KJ00003717324/_pdf/-char/ja
- 岸本通夫(1958).「ダンテ『新曲』のラティニズモ(1)」『イタリア学会誌』7 巻, pp.45-50 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/7/0/7_KJ00003718135/_pdf/-char/ja
- 岸本通夫(1961).「ダンテ『新曲』のラティニズモ(2)」『イタリア学会誌』9 巻, pp.72-75 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/9/0/9_KJ00003718178/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1966).「現代イタリア語における借用語について＜特集＞」『広大言語』6 巻, pp.16-20 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/46239/files/31768
- 古浦敏生(1967).「イタリア語の基数詞に関する問題点＜特集＞」『広大言語』7 巻, pp.1-3 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/46263/files/33118
- 古浦敏生(1986).「イタリア語におけるギリシャ語法：イタリア語に翻訳されたギリシャ人名を中心として」『広島大学文学部紀要』45 巻, pp.453-472 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044335
- 古浦敏生(1990).「イタリア語における日本語からの借用語：その性（genere）をめぐって」『広島大学文学部紀要』49 巻, 特輯号 2, pp.1-91
- 古浦敏生(1990)「イタリア語における色彩表現：「color＋名詞」と「color＋色彩形容詞＋名詞」を中心として」『南欧文化』7 号, 文流, pp.1-25
- 古浦敏生(1991).「『イタリア語における日本語からの借用語』資料補遺」『広島大学文学部紀要』50 巻, pp.349-370
- 古浦敏生(1992).「イタリア語における日本語からの借用語：その定着度測定のための一つの試み」『広島大学文学部紀要』51 巻, pp.411-427
- 古浦敏生(1997).「日本語におけるイタリア語からの借用」『広島大学文学部紀要』57 巻, 特輯号 3, pp.1-89
- 古浦敏生(2003).「イタリア語に借用された英語名詞の性」『ニダバ(NIDABA)』32 巻, pp.66-75 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44732/files/29311
- 古浦敏生(2004).「日本語における「片仮名イタリア語」の諸相」『ニダバ(NIDABA)』33 巻, pp.1-10 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45539/files/30329
- 谷栄一郎(1998).「イタリア語に入った日本語」『奈良県立商科大学研究季報』9 巻, 2 号, pp.77-88
- ナンニーニ・アルダ*(1999).「ラテン語と古イタリア語の《Mestiere》(必要)について」『ロマンス語研究』32 号, pp.101-108 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/032/studrom_032_010.pdf

5. 統語論

- 秋山余思(1957).「Verbo servile について」『イタリア学会誌』6 巻, pp.74-82 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/6/0/6_KJ00003718122/_pdf/-char/ja
- 朝賀俊彦(2014).「形容詞的名詞構文が示す変異の連続的段階性について」『福島大学人間発達文化学類論集』20 号, pp.53-63 http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000004732/16-124.pdf
- 石岡精三(1991).「現代イタリア語における WH 要素の統語移動について」『長岡技術科学大学言語・人文科学論集』5 巻, pp.69-92 https://nagaokaut.repo.nii.ac.jp/records/258
- 石岡精三(1994).「イタリア語における R-Tutti と L-Tutti について」『長岡技術科学大学言語・人文科学論集』8 巻, pp.39-76 https://nagaokaut.repo.nii.ac.jp/records/278
- 石岡精三(2002).「イタリア語における Wh 島内部からの Wh 要素移動について」『ロマンス語研究』35 号, pp.24-33 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/035/studrom_035_003.pdf
- 石岡精三(2004).「イタリア語とスペイン語における Wh 島の事象について：英語における対応事象の解明をめざして」『長岡技術科学大学言語・人文科学論集』17 巻, pp.1-26 https://nagaokaut.repo.nii.ac.jp/records/327
- 石岡精三(2018).「イタリア語における Wh 島を越える Wh 移動について」『ロマンス語研究』51 号, pp.125-134 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/051/studrom_051_013.pdf
- 猪浦道夫(1986).「イタリア語冠詞論」『ロマンス語研究』19 号, pp.9-22 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/019/studrom_019_002.pdf
- 猪浦道夫(2007).『イタリア語冠詞』鋭脳
- 上野貴史(2001).「19 世紀イタリア語名詞句における“省略形”：使用形態と統語構造」『大阪女子短期大学紀要』26 巻, pp.13-24 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45632/files/1186
- 上野貴史(2002).「19 世紀イタリア語における修飾語に関する一考察：stesso/medesimo, qualche/alcuno, tutto」『ニダバ(NIDABA)』31 巻, pp.11-20 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44353/files/10705
- 上野貴史(2010).「過去分詞の統語機能と派生語」『イタリア学会誌』60 巻, pp.89-110 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/60/0/60_KJ00006713849/_pdf/-char/ja
- 上野貴史(2013).「イタリア語における文法文型と文要素配列：動詞の意味構造と結合価」『言語文化学会論集』41 巻, pp.75-105 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45408/files/39962
- 上野貴史(2015).「イタリア語非対格自動詞補文の使用分布と統語構造」『広島大学大学院文学研究科論集』75 巻, pp.43-60 https://core.ac.uk/download/pdf/222956662.pdf
- 上野貴史(2017).「イタリア語における「essere+形容詞」非定型補文について：通時的文章コーパスを用いて」『ロマンス語研究』50 号, pp.87-96 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45488/files/705
- 上野貴史(2018).「イタリア語非対格動詞における補文の通時的変遷－古イタリア語の小節構造－」『イタリア学会誌』68 巻, pp.73-94 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/68/0/68_73/_pdf/-char/ja
- 久保博(2014).「イタリア語」『東京外国語大学語学研究所論集』19 号, 特集「他動性」,

pp.203-219
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/19/jilr_19_sp_data_italian_Kubo.pdf

- 蔵藤健雄*(2006).「PARSE (wh)と多重 wh 疑問文の表現不可能性問題」『琉球大学欧米文化論集』50 巻, pp.33-53 https://u-ryukyu.repo.nii.ac.jp/record/2002368/files/No50p33.pdf
- 古浦敏生(1967).「イタリア語における冠詞研究(3)：方角をあらわす名詞を中心として」『イタリア学会誌』15 巻, pp.75-83 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/15/0/15_KJ00003717360/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1979).「イタリア語における冠詞研究(5)：作家名を中心として」『ニダバ(NIDABA)』8 巻, pp.15-22 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44719/files/31543
- 古浦敏生(1996).『イタリア語における冠詞研究』文流
- 古浦敏生(2005).「13 世紀イタリア語における人称代名詞男性単数与格について」『ニダバ(NIDABA)』34 巻, pp.30-37 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44733/files/29406
- 菅田茂昭(1966).「現代イタリア語における sintagma《名詞＋名詞》」『早稲田大学語学教育研究所紀要』5 号, pp.33-79
- 鈴木信吾(1986).「イタリア語における無標の語順について」『イタリア学会誌』36 巻, pp.102-121 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/36/0/36_KJ00003717758/_pdf/-char/ja
- 鈴木信吾(1987).「談話における左方転位のイタリア文」『東京音楽大学研究紀要』12 巻, pp.28-39 https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/record/692/files/KJ00005443312.pdf
- 鈴木信吾(1994).「古イタリア語における動詞の前方という位置」『イタリア学会誌』44 巻, pp.177-204 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/44/0/44_KJ00003717915/_pdf/-char/ja
- 鈴木信吾(2010).「古イタリア語の直接疑問文の構造」『ロマンス語研究』43 号, pp.1-10 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/043/studrom_043_001.pdf
- 鈴木信吾(2012).「イタリア語文構造の通時的変化」『ロマンス語研究』45 号, pp.31-40 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/045/studrom_045_004.pdf
- チェスパ・マリアンナ(2013).「イタリア語における近過去形と遠過去形の「置き換え」について」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』13 巻, pp.205-223 https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/54070/1/011_CESPA.pdf
- チェスパ・マリアンナ(2014).「イタリア語における過去を表す時制について－近過去形・遠過去形・現在形－」『ロマンス語研究』47 号, pp.21-29 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/047/studrom_047_003.pdf
- チェスパ・マリアンナ(2019).「イタリア語における時制の一致に関するルールの適用とその観点について」『北海道言語文化研究』17 巻, pp.37-53 https://muroran-it.repo.nii.ac.jp/record/10054/files/HLC_17_37_53.pdf
- 土肥篤(2020).「談話辞としての心性与格への統語的アプローチ」『イタリア学会誌』70 巻, pp.125-145 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/70/0/70_125/_pdf/-char/ja
- 土肥篤(2021).「イタリア語におけるモダリティ」『東京外国語大学語学研究所論集』26

号, pp.81-89
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/117360/1/jilr26_sp_Italian16_Dohi.pdf

- 橋本勝雄(2014).「動詞に基づくイタリア語の文型について」『京都外国語大学国際言語平和研究所研究論叢』83 号, pp.349-366 https://kufs.repo.nii.ac.jp/records/25
- 橋本勝雄(2017).「イタリア語の部分冠詞と接辞 ne について」『京都外国語大学国際言語平和研究所研究論叢』89 号, pp.9-28 https://kufs.repo.nii.ac.jp/records/264
- 東哲史(1999).「イタリア語のみ完了アスペクト：未完了時制と«stare+gerundio»」『イタリア学会誌』49 巻, pp.243-268
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/49/0/49_KJ00003718014/_pdf/-char/ja
- 藤田健(2004).「イタリア語における関係代名詞の統語的特徴」『認知科学研究』3 巻, pp.17-36 https://u.muroran-it.ac.jp/hlc/cognitive/2004/03.pdf
- 藤田健(2010).『ロマンス語再帰代名詞の研究－クリティックとしての統語的特性－』北海道大学出版会
- 森田華奈子(2020).「16 世紀イタリア文法における条件法の扱い」『国立音楽大学研究紀要』55 巻, pp.173-181
https://kunion.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2367&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1&page_id=13&block_id=21
- 山本真司(2010).「イタリア語の中動態について(その２)」『東京外国語大学論集』80 巻, pp.273-291 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/59885/2/acs080013_ful.pdf
- 山本真司(2012).「イタリア語における非人称の si と受動態の si の構文－特に変則的な一致について－」『東京外国語大学語学研究所論集』17 号, pp.23-37
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/72783/1/ilr017002.pdf

6. 意味論

- 青木洋一郎(2014).「イタリア語の冠詞における指示と数量について」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュール』8 巻, 1 号, pp.89-96
- 島津寛(1998).「近過去の本質」『イタリア学会誌』48 巻, pp.275-294
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/48/0/48_KJ00003717993/_pdf/-char/ja
- 久保博(2018).「イタリア語における否定、形容詞と連体修飾複文」『東京外国語大学語学研究所論集』23 号, 特集「否定、形容詞と連体修飾複文」, pp.77-88
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/23/jilr23_sp_data_italian_kubo.pdf
- 久保博(2021).「イタリア語の所有・存在表現」『東京外国語大学語学研究所論集』26 号, 特集「所有・存在表現」, pp.101-119
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/26/jilr26_sp_Italian18_Kubo.pdf
- 古浦敏生(1969).「イタリア語における性(gender)について」『広島大学言語学会』9 巻, pp.1-5 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/46331/files/31869

- 白崎容子(1992).「ONESTO の意味するもの」.「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.153-180
- 野村雅一(1971).「イタリア語の性に関する語彙をめぐって：転用とその意味構造論」『イタリア学会誌』19 巻, pp.90-98 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/19/0/19_KJ00003717436/_pdf/-char/ja
- 橋本勝雄(2002).「『くもの巣の小道』における三人称現在の成立と意味」『イタリア学会誌』51 巻, pp.25-53 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/51/0/51_KJ00003718101/_pdf/-char/ja
- 村岡潔(2014).「イタリア語における二人称代名詞《tu (君)》と《Lei (あなた)》の差異の意味について」『佛教大学文学部論集』98 号, pp.45-52 https://archives.bukkyo-u.ac.jp/rp-contents/BO/0098/BO00980L045.pdf
- Zamborlin, Chiara(2006).「イタリア語の近過去における助動詞の選択の基準について：意味論的観点からの提案」『ニダバ(NIDABA)』35 巻, pp.56-64 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/49609/files/12374

7. 語史

- 秋山余思(1986).「イタリア語の再帰動詞について」『イタリア学会誌』36 巻, pp.169-195 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/36/0/36_KJ00003717761/_pdf/-char/ja
- 坂本鉄男(1963).「13 世紀末迄のイタリア語男性定冠詞の形態について」『東京外国語大学論集』10 号, pp.61-75
- 鈴木信吾(1991).「イタリア語とフィレンツェ方言の主語代名詞：３人称 egli, ella の歴史的展望」『イタリア学会誌』41 巻, pp.84-103 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/41/0/41_KJ00003717873/_pdf/-char/ja
- 菅田茂昭(1969).「イタリアにおける国語学(1873-1968)」『ロマンス語研究』4 号, pp.38-42 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/004/studrom_004_005.pdf
- 古浦敏生(1977).「Duecento イタリア語における participio assoluto と gerundio assoluto－Novellino を中心として－」『ロマンス語研究』11 号, pp.39-45 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/011/studrom_011_005.pdf
- 古浦敏生(1978).「Duecento イタリア語における前置詞の用法：出発点「～から」の意を表わす da と di について」『日本言語学学会機関誌：言語研究』73 号, pp.73-74 https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/1978/73/1978_73_73/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1981).「イタリア語における２人称単数“否定命令”表現の史的考察」『ニダバ(NIDABA)』10 巻, pp.1-10 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44720/files/8208
- 古浦敏生(1983).「Duecento イタリア語の特色－「テゾレット」＆「ノヴェッリーノ」を中心として」『日伊文化研究』21 号, pp.104-116
- 古浦敏生(2000).「13 世紀イタリア語文法研究：『小宝庫』と『古譚百種』を資料とし

て」『広島大学文学部紀要』60 巻, 特輯号 4, pp.1-92

- 長神悟(1981).「条件法をめぐって」『イタリア学会誌』30 巻, pp.75-92 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/30/0/30_KJ00003717641/_pdf/-char/ja
- 町田健(1983).「イタリア語の「過去未来」について」『イタリア学会誌』32 巻, pp.97-116 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/32/0/32_KJ00003717683/_pdf/-char/ja

8. 方言学

(ア) 一般

- 秋山余思(1992).「南イタリアにおけるギリシア語的統辞法」.「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.5-24
- 菅田茂昭(1973).「イタリア言語地図」『ロマンス語研究』7 号, pp.43-44 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/007/studrom_007_005.pdf
- 菅田茂昭(1980).「イタリア方言研究のために」『ロマンス語研究』12 号, pp.102-112 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/012/studrom_012_010.pdf
- 櫻井健(1997).「イタリア語諸方言における完了助動詞の分布と文法化の関連性について」『ロマンス語研究』30 号, pp.42-52 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/030/studrom_030_007.pdf

(イ) イストリア語

- 北村一親(1998).「「イストリア言語学」研究序説」『アルテス・リベラレス』63 号, pp.1-16 https://iwate-u.repo.nii.ac.jp/records/13388

(ウ) ガロ・ロマンス語

- 矢島猷三(1995).「ガロ・ロマンス語におけるいくつかの類推現象について」『ロマンス語研究』28 号, pp.87-94 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/028/studrom_028_008.pdf

(エ) コルシカ語

- 長谷川秀樹(2003).「コルシカ語の音韻的特性について」『ロマンス語研究』36 号, pp.57-66 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/036/studrom_036_007.pdf
- 長谷川秀樹(2005).「コルシカ語における音声アクセントと符号アクセントについて」『ロマンス語研究』38 号, pp.47-57 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/038/studrom_038_006.pdf
- 長谷川秀樹(2007). 「コルシカ語における新語形成」『ロマンス語研究』40 号, pp.31-39 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/040/studrom_040_004.pdf
- 渡邊淳也(2017).『コルシカ語基本文法』早美出版社

(オ) サルデーニャ語

- 金澤雄介(2006).「サルデーニャ語におけるカスティーリャ語からの借用について－借用時期の相対年代－」『ロマンス語研究』39 号, pp.51-60 http://sjsrom.ec-

net.jp/studrom/039/studrom_039_006.pdf
- 金澤雄介*(2007).「サルデーニャ語および西ロマンス諸語における無声閉鎖重子音の通時的変化について」『ロマンス語研究』40 号, pp.48-57 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/040/studrom_040_006.pdf
- 金澤雄介(2009).「サルデーニャ語第 2 変化動詞の直説法現在における人称語尾」『ロマンス語研究』42 号, pp.59-68 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/042/studrom_042_007.pdf
- 金澤雄介(2011).「サルデーニャ語カンピターノ方言における第 2 ・第 3 変化動詞の直説法半過去語尾の形成について」『ロマンス語研究』44 号, pp.69-78 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/044/studrom_044_009.pdf
- 金澤雄介(2011). 『サルデーニャ語動詞形態論の通時的研究』松香堂.

(カ) サレント方言

- 田中慎吾(2009).「サレント方言における不定詞使用について」『ロマンス語研究』42 号, pp.1-9 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/042/studrom_042_001.pdf

(キ) シチリア方言

- 信森廣光(1991).「イタリア・シチリア方言のアラブごとの相関」『山口大学文学会誌』42 号, pp.103-110

(ク) トスカーナ方言

- 岩倉具忠(1965).「トスカナ方言の有気音について」『イタリア学会誌』13 巻, pp.74-79 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/13/0/13_KJ00003717323/_pdf/-char/ja

(ケ) ドロミテ・ラディン語

- 大澤麻里子(2015).「南チロルのドロミテ・ラディン語の母語継承－イタリア語とドイツ語の狭間で－」『麗澤学際ジャーナル』23 巻, pp.95-114 https://core.ac.uk/download/pdf/234644519.pdf
- 大澤麻里子(2000). 「ボルツァーノの言語状況」『東京大学言語情報科学研究』5 号. 東京大学言語情報科学研究会.
- 土肥篤(2015).「ドロミテ・ラディン語パディーア方言における疑問の小辞」『ロマンス語研究』48 号, pp.65-74 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/048/studrom_048_008.pdf

(コ) ナポリ方言

- 板久梓織(2012).「ナポリ方言語彙使用の世代差」『東京外国語大学記述言語学論集』8 号, pp.115-122 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/90482/1/Itaku.pdf

(サ) フィレンツェ方言

- 岩倉具忠(1969).「フィレンツェ方言の歴史的一考察」『イタリア学会誌』17 巻, pp.89-96 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/17/0/17_KJ00003717399/_pdf/-char/ja

(シ) フリウリ語

- 山本真司(1988).「パゾリーニのフリウリ語」『イタリア学会誌』38 巻, pp.52-76 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/38/0/38_KJ00003717791/_pdf/-char/ja
- 山本真司(1995).「レト・ロマンス語の概念の再検討－フリウリ語の sedon/cucjarin のケースを例に－」『ロマンス語研究』28 号, pp.71-75 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/028/studrom_028_006.pdf
- 山本真司(2001).「フリウリ語の辞書と言語の標準化・規範化の問題」『ロマンス語研究』34 号, pp.19-28 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/034/studrom_034_003.pdf
- 山本真司(2003).「フリウリ語の定動詞の否定形－特に接語形主語人称代名詞との関連において－」『ロマンス語研究』36 号, pp.30-39 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/036/studrom_036_004.pdf
- 山本真司(2006).「フリウリ語の強勢音節における長母音について」『ロマンス語研究』39 号, pp.61-70 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/039/studrom_039_007.pdf
- 山本真司(2007).「フリウリ語における支え母音 -i －その発生と拡張の歴史－」『ロマンス語研究』40 号, pp.58-67 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/040/studrom_040_007.pdf
- 山本真司(2008).「『黒を一杯』－フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州における体験より－」『ロマンス語研究』41 号, pp.11-20 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/041/studrom_041_002.pdf
- 山本真司(2009).「イタリア北東部国境地域におけるフリウリ語・スロヴェニア語間の言語接触」『ロマンス語研究』42 号, pp.11-20 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/042/studrom_042_002.pdf
- 山本真司(2009).「ヨーロッパの言語スタンダードとイタリア北東部の言語状況について」『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』pp.197-212 http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/EU/EU_houkokusho/yamamoto.pdf
- 山本真司(2010).「フリウリ語の cemût と come：疑問詞的用法と非疑問詞的用法」『ロマンス語研究』43 号, pp.11-20 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/043/studrom_043_002.pdf
- 山本真司(2011).「プロテスタント宗教改革とカトリック宗教改革がフリウリ語の歴史に与えた影響について」『東京外国語大学論集』82 巻, pp.351-366 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/65742/2/acs082016_ful.pdf
- 山本真司(2013).「フリウリ語の「人称名詞付き前置詞」あるいは前置詞と人称代名詞の融合」『ロマンス語研究』46 号, pp.1-10 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/046/studrom_046_001.pdf
- 山本真司(2015).「フリウリ語における複合時制形の過去分詞に前接される人称代名詞与格」『ロマンス語研究』48 号, pp.11-20 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/021/studrom_021_004.pdf
- 山本真司(2018).「「カエル」とは何か：フリウリ語の例より」『ロマンス語研究』

51 号, pp.31-40 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/051/studrom_051_004.pdf

(ス) ミラノ方言

- 藤村昌昭(1978).「ミラノ方言の音韻研究(その 1)：母音」『大阪外国語大学学報』42 巻, pp.15-28 https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/80709/joufs_42_015.pdf

(セ) ヴェネツィア方言

- 荻原寛(2000).「ヴェネツィア方言における無主語接語文」『ロマンス語研究』33 号, pp.12-22 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/033/studrom_033_002.pdf
- 宮坂真紀(2008).「ゴルドーニの喜劇におけるヴェネツィア方言の意味とその効果に関する考察：Le Morbinose と Le Donne di buon umore の比較を通して」『イタリア学会誌』58 巻, pp.63-84 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/58/0/58_KJ00005059846/_pdf/-char/ja
- 宮坂真紀(2011).「ゴルドーニのヴェネツィア方言劇におけるイタリア語：ガスパリーナの 2 言語併用」『イタリア学会誌』61 巻, pp.23-44 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/61/0/61_KJ00007562683/_pdf/-char/ja

9. 文体論・修辞学

- 池田廉(1956).「イタリア文芸批評と文体論（第二回国際イタリア文学研究会議より）」『イタリア学会誌』5 巻, pp.105-109 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/5/0/5_KJ00003718066/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1972).「現代イタリア文学における散文の言語」『イタリア学会誌』20 巻, pp.1-10 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/20/0/20_KJ00003717460/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1974). 「美術批評の言語について」『イタリア学会誌』22 巻, pp.95-103 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/22/0/22_KJ00003717502/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1979).「シチリア派の言語と文体について：Giacomo da Lentini と Guido delle Colonne にみられる」『イタリア学会誌』27 巻, pp.24-47 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/27/0/27_KJ00003717576/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1983).「ダンテのレトリック」. 古田敬一編.『レトリックと文体：東西の修辞法をたずねて』丸善書店, pp.31-49
- 土肥秀行(2000).「パゾリーニ『ガザルサ詩集』の詩語」『イタリア学会誌』50 巻, pp.208-231 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/50/0/50_KJ00003718084/_pdf/-char/ja
- 村瀬有司(2017).「『エルサレム解放』の 7 行目終わりの直接話法：配置の特徴と効果について」『イタリア学会誌』67 巻, pp.25-48 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/67/0/67_25/_pdf/-char/ja
- 村瀬有司(2018).「『エルサレム解放』における直接話法の配置の特徴と効果：前置型の「導入表現に導かれた行頭から始まる発話について」『イタリア学会誌』68 巻, pp.1-23 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/68/0/68_1/_pdf/-char/ja

- 村瀬有司(2020).「『エルサレム解放』の偶数行から始まる直接話法について」『イタリア学会誌』70 巻, pp.51-74 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/70/0/70_51/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1983).「ダンテのレトリック」. 古田敬一編.『レトリックと文体：東西の修辞法をたずねて』丸善書店, pp.31-49

10. 対照言語学・翻訳論

(ア) 日・伊

- 菅田茂昭(2011).「イタリア語 VS 日本語」『ロマンス語研究』44 号, pp.31-34 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/044/studrom_044_004.pdf
- 古浦敏生(1993).「イタリア語・フランス語に借用された日本語名詞の性」『広島大学文学部紀要』52 巻, pp.227-245
- 古浦敏生(1993). 「イタリア語の付加疑問とそれに対応する日本語の文末－川端康成『古都』とそのイタリア語役を資料として－. 藤原与一編.『言語類型論と文末詞』三弥井書店, pp.21-31
- 古浦敏生(1995).「イタリア語・日本語における色彩語彙の対象研究」『南欧文化』16 号, 文流, pp.16-36
- 古浦敏生(2005).「日本語・イタリア語発話動詞比較対照研究」『広島大学フランス文学研究』24 巻, pp.384-395 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/19760/files/7945
- 古浦敏生(2006).「日本語・イタリア語対照研究：「行く/来る」vs「andare/venire」」『ニダバ(NIDABA)』35 巻, pp.75-84 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44735/files/29414
- 古浦敏生(2007).「日本語・イタリア語における温度形容詞の比較対照研究」『ニダバ(NIDABA)』36 巻, pp.67-76 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44736/files/29369
- 古浦敏生(2008).「日本語・イタリア語対照研究：「父/母」vs「padre/madre」」『ニダバ(NIDABA)』37 巻, pp.135-142 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44739/files/30084
- 古浦敏生(2009).「日本語・イタリア語における反復表現の比較対照研究：畳語(epizeuxis)を中心に」『ニダバ(NIDABA)』38 巻, pp.78-87 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45552/files/38029
- 古浦敏生(2010).「日本語・イタリア語対照研究：語中音添加を中心として」『ニダバ(NIDABA)』39 巻, pp.68-77 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44742/files/29455
- 古浦敏生(2012).「日本語・イタリア語対照研究：「水語彙」を中心として」『ニダバ(NIDABA)』41 巻, pp.51-60 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/49698/files/38532
- 古浦敏生(2013).「日本語・イタリア語における「時刻指定表現」の対象研究」『ニダバ(NIDABA)』42 巻, pp.90-91 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44746/files/29417
- 古浦敏生(2014).「日本語・イタリア語対照研究：「古－/旧－」vs「antico/vecchio」」『ニダバ(NIDABA)』43 巻, pp.79-88 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44748/files/42179

- 古浦敏生(2015).「日本語・イタリア語対照研究：「花語彙」を中心として」『ニダバ(NIDABA)』44 巻, pp.80-88 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44751/files/37684
- 古浦敏生(2017).「日本語・イタリア語対照研究：「高・低」vs「alto・basso」」『ニダバ(NIDABA)』45 巻, pp.59-68 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44753/files/33915
- 古浦敏生(2017).「日本語・イタリア語対照研究：物の周辺・先端部を指す名詞を中心として」『ニダバ(NIDABA)』46 巻, pp.54-62 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44756/files/3
- 古浦敏生(2018).「日本語・イタリア語対照研究：職業名を構成する接尾辞を中心として」『ニダバ(NIDABA)』47 巻, pp.1-10 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/45415/files/30106
- チェスパ・マリアンナ(2012).「イタリア語と日本語の複文における時制について」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』12 巻, pp.169-187 https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/51966/1/009_MARIANNA.pdf
- チェスパ・マリアンナ(2015).「イタリア語と日本語の過去時制に関する対照研究」『北海道大学博士論文』11630 号 https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/58743/1/Cespa_Marianna.pdf
- ナンニーニ・アルダ*(2007).「日本人学習者におけるイタリア語の冠詞習得について：対象言語学的アプローチおよび教授法の諸提案」『イタリア学会誌』57 巻, pp.20-47 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/57/0/57_KJ00004737446/_pdf/-char/ja
- 西本晃二(1992). 「イタリヤ語のカナ表記について：試論」.「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.41-55

(イ) 伊・英

- 上野貴史(1997).「英語名詞複合語とイタリア語表現」『ニダバ(NIDABA)』26 巻, pp.77-85 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44352/files/29488

(ウ) ロマンス語

- 小倉博史(2014).「ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について(5)－ロマン諸語(フランス語、イタリア語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語)と日本の故事・諺・成句にみられる楽器名による比喩表現を中心として－」『国際言語平和研究所研究論叢』84 号, pp.59-73 https://kufs.repo.nii.ac.jp/records/130
- 菅田茂昭*(1986).「il futuro nell'italiano e nelle lingue romanze」『ロマンス語研究』19 号, pp.85-87 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/019/studrom_019_009.pdf
- 谷栄一郎(1996).「ロマンス語比較：語彙の継承」『奈良県立商科大学研究季報』7 巻, 1 号, pp.51-64 https://narapu.repo.nii.ac.jp/records/299
- 土屋亮(2017).「スペイン語「中性定冠詞」lo の諸用法とこれに相当するイタリア語およびフランス語の表現について」『福岡大学人文論叢』49 巻, 3 号, pp.805-837

https://fukuoka-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=4252&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1

- 藤田健(2004).「ロマンス諸語における冠詞のカテゴリー化に関する対照的考察」『認知科学研究』2 巻, pp.19-36 https://muroran-it.repo.nii.ac.jp/record/5304/files/02.pdf
- 藤田健(2004).「ロマンス諸語における不定詞節内の代名詞クリティックの格照合」『北海道大学文学研究科紀要』112 巻, pp.105-134 https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/34064/1/112_PL105-134.pdf
- 藤田健(2012).「ロマンス諸語における定冠詞の代名詞的性質」『北海道言語文化研究』10 巻, pp.7-22 https://u.muroran-it.ac.jp/hlc/2012/02fujita.pdf
- 山村ひろみ(2017).「スペイン語の estar+gerundio の特徴：対応するフランス語・イタリア語の迂言形式との対照の観点から」『九州大学言語文化論究』38 巻, pp.85-96 https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1804176/p085.pdf

(エ) 伊・仏

- 石岡精三(1994).「フランス語とイタリア語における受動使役構文について」『ロマンス語研究』27 号, pp.53-65 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/027/studrom_027_006.pdf
- 石岡精三(2004).「イタリア語とフランス語の関係詞(di cui, don't)の摘出移動について」『ロマンス語研究』37 号, pp.37-46 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/037/studrom_037_005.pdf
- 上野貴史(2020).「フランス語 sembler とイタリア語 sembrare における属詞構文：数量的分析から見る繋辞性・動詞性」『広島大学文学部論集』80 巻, pp.45-60 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/50926/files/232
- 上野貴史(2021).「イタリア語 sembrare とフランス語 sembler における自動詞：その派生と繋辞性」『ニダバ(NIDABA)』50 巻, pp.1-15 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/51022/files/2051
- 上野貴史(2021).「イタリア語 sembrare とフランス語 sembler における非人称用法：認識動詞との類似性を通じて」『言語文化学会論集』56 巻, pp.61-85 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/52214/files/44456
- エモンズ・ジョゼフ*(2001).「右方転位とフランス語/イタリア語の接語 EN/NE の関係について」『日本言語学学会機関誌：言語研究』119 号, pp.1-32 https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/2001/119/2001_119_1/_pdf/-char/ja
- 岸本通夫(1966).「フランス語とイタリア語」『大阪市立大学人文研究』17 巻, 3 号, pp.294-311 https://www.i-repository.net/contents/osakacu/kiyo/DBd0170305.pdf
- 木村泰歩(2013).「イタリア語の空間を表す前置詞 a, in, dentro－フランス語前置詞 à, en, dans との対照から－」『東京外国語大学記述言語学論集』9 巻, pp.127-134 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/90619/1/Kimura.pdf

- 小林英夫(1962).「フランス語の triste とイタリア語の triste」『日本言語学学会機関誌：語学研究』42 号, pp.15-22 https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/1962/42/1962_42_15/_pdf/-char/ja
- 長神悟(1981).「二つの『アレクシウス』－中世フランス・イタリアの聖者伝をめぐって－」『ロマンス語研究』13/14 合併号, pp97-109 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/013-014/studrom_013-014_008.pdf
- 長谷川秀樹(2016).「フランス語・イタリア語との比較におけるコルシカ語動詞複合時制における助動詞 esse/avè について」『横浜国立大学教育人間科学部紀要. II, 人文科学』18 巻, pp.19-30
- 東哲史(2017).「動詞の法の比較に関する一考察」『東京音楽大学研究紀要』40 巻, pp.135-152 https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/record/1137/files/07_p135_Higashi.pdf
- 藤田健(2013).「フランス語とイタリア語における部分冠詞の分布について」『北海道言語文化研究』11 号, pp.77-98 https://u.muroran-it.ac.jp/hlc/2013/07.pdf
- 藤田健(2015).「フランス語とイタリア語における指示代名詞の分布について」『北海道言語文化研究』13 巻, pp.25-47 https://muroran-it.repo.nii.ac.jp/record/5416/files/03fujita.pdf
- 舟杉真一(1999).「日本語からの借用語の性－フランス語とイタリア語の場合－」『ロマンス語研究』32 号, pp.1-10 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/032/studrom_032_001.pdf
- 山田怜央(2011).「フランス語とイタリア語の接続法について－croire/credere の従属節中の法選択－」『思言：東京外国語大学記述言語学論集』7 号, pp.201-208 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/90496/1/1_YamadaL.pdf
- 山田怜央(2013).「フランス語とイタリア語の接続法について－思考動詞の従属節内の法選択－」『思言：東京外国語大学記述言語学論集』9 号, pp.95-104 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/90616/1/Yamada.pdf

(オ) 伊・西

- 伊藤太吾(1991).『イタリア語からスペイン語へ』大学書林
- 藤田健(2017).「スペイン語とイタリア語における定冠詞の分布について」『北海道言語文化研究』15 巻, pp.71-93 https://u.muroran-it.ac.jp/hlc/2017/06.pdf

(カ) 伊・ルーマニア

- 鈴木信吾(2022).「伝聞による証拠性の標識：イタリア語の DICE CHE とルーマニア語の CICA の文法化の度合いについて」『東京音楽大学研究紀要』46 巻, pp.23-41
- 藤田健(2019).「イタリア語とルーマニア語の定冠詞に関する対照研究」『北海道大学文学研究院紀要』158 巻, pp.77-115 https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/75220/1/158_10_Fujita.pdf
- リディ・ヴァッラウリ．鈴木信吾*(2013).「ルーマニア語とイタリア語における前置詞付き目的語」『ロマンス語研究』46 号, pp.11-19 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/046/studrom_046_002.pdf

(キ) その他

- 上野貴史(2020).「名詞述語文の小節構造分析：英語・イタリア語・フランス語の場合」『ニダバ(NIDABA)』49 巻, pp.11-20 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/49095/files/36542
- 古浦敏生(2017).「再録論文(抄)：イタリア語に翻訳されたギリシャ人名」『プロピレア』23 巻, pp.9-11 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44335/files/30972
- 田中紀男(1993).「英・仏・伊語の不定詞構造について」『天理大学学報』172 号, pp.21-44 https://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/1867/GKH017202.pdf

(ク) 翻訳論

- 伊藤玄吾(2018).「ベンボ『俗語論』の 16 世紀中期フランスにおける受容に関する－考察：ジャン＝ピエール・ド・メムの『イタリア語文法』を中心に」『天野恵先生退職記念論文集』pp.67-83 https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/233686/1/keiamano_67.pdf
- 玉置祐子(2005).「FOREIGNIZATION (異化)：理論と実際－訳文の語彙を中心に－」『通訳研究』5 巻, pp.239-254 https://www.jstage.jst.go.jp/article/istk/5/0/5_0512/_pdf/-char/ja

11. 言語教育学

- 斎藤智栄子(2011).「日本人学習者によるイタリア語の名詞と冠詞の習得に関する考察」『ロマンス語研究』44 号, pp.79-88 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/044/studrom_044_010.pdf
- 高田和文(2006).「大学におけるイタリア語教育の現状と第二外国語学習の意義について」『静岡文化芸術大学研究紀要』6 巻, pp.1-9 https://suac.repo.nii.ac.jp/records/597
- 谷口真生子(2023).「本学のイタリア語学修にみられる問題点」『大阪音楽大学研究紀要』61 巻, pp.40-54 https://www.jstage.jst.go.jp/article/daion/61/0/61_40/_pdf/-char/ja
- 畷絵里(2017).「イタリア語を学ぶ日本人学習者の利点と不利点：イタリア語講師へのインタビューを通じて」『人間文化研究』6 巻, pp.189-211 https://stars.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=8811&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
- ナンニーニ・アルダ*(2009).「言語接触の場としての教室：日本人学習者の動詞使用における L1 転移に関して」『ロマンス語研究』42 号, pp.49-58 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/042/studrom_042_006.pdf
- ナンニーニ・アルダ, ビオンディ・マルコ(2011).「日本語を母語とする完全な初心者のためのイタリア語のシラバス」『イタリア学会誌』61 巻, pp.237-270 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/61/0/61_KJ00007562692/_pdf/-char/ja
- ナンニーニ・アルダ. 横田太郎. 森田華奈子(2022).「イタリア語の授業運営について：日本人教員およびイタリア人教員に向けた帰納的観点からの教授法、その提案と助

言」『国立音楽大学研究紀要』57 巻, pp.189-199 https://kunion.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2582&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1&page_id=13&block_id=21

- 丸田美香(2015).「日本人学習者によるイタリア語冠詞の習得と使用について－上級学習者に関する考察－」『ロマンス語研究』48 号, pp.55-64 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/048/studrom_048_007.pdf
- 宮坂真紀(2012).「イタリア語－桜美林大学におけるイタリア語教育(I.特集：桜美林大学の外国語教育)」『Obirin today：教育の現場から』12 巻, pp.51-56

12. 言語観・言語論・語学研究史

- 青木洋一郎(1999).「ダンテの言語論におけるラテン語と俗語」『イタリア学会誌』49 巻, pp.164-191 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/49/0/49_KJ00003718011/_pdf/-char/ja
- 秋山余思(1958).「『俗語論』について」『イタリア学会誌』7 巻, pp51-61 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/7/0/7_KJ00003718136/_pdf/-char/ja
- 秋山余思(1963).「十四・五世紀に於ける「俗語の起源」についての考え」『イタリア学会誌』12 巻, pp.7-14 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/12/0/12_KJ00003717298/_pdf/-char/ja
- 秋山余思(1978).「アレッサンドロ・マンゾーニの言語問題」. 阿部史郎編.『リソルジメント文化研究』京都産業大学外国語学部イタリア語研究所発行, pp.5-25
- 天野恵(1979).「Cortegiano における言語論争の背景」『イタリア学会誌』27 巻, pp.120-129 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/27/0/27_KJ00003717582/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1967).「クローチェの言語理論：附クローチェ著「音韻法則」訳（資料として）」『イタリア学会誌』15 巻, pp.19-34 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/15/0/15_KJ00003717355/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1968).「イタリアにおける基層理論の形成：アスコリに至るまで」『イタリア学会誌』16 巻, pp.85-100 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/16/0/16_KJ00003717380/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1980).「ダンテの言語観とその背景：附「俗語詩論」第一巻全訳」『イタリア学会誌』29 巻, pp.1-71 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/29/0/29_KJ00003717609/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1982).「ダンテの言語思想とその fonti について」『イタリア学会誌』31 巻, pp.193-211 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/31/0/31_KJ00003717668/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1990).「ダンテの神秘的言語観：『天国篇』XV をめぐって」『イタリア学会誌』40 巻, pp.1-16

https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/40/0/40_KJ00003717850/_pdf/-char/ja
- 岩倉具忠(1992).「ヴィーコの言語史観」. 「秋山余思教授退官記念論文集」編集委員会編.『イタリア語ことばの諸相：秋山余思教授退官記念論文集』イタリア書房, pp.181-202
- 岩倉具忠(1997).「言語と自由意志：ダンテの言語思想についての一考察」『イタリア学会誌』47 巻, pp.1-17 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/47/0/47_KJ00003717961/_pdf/-char/ja
- 角井俊樹(1988).「イタリアにおける言語統一の過程(1)」『京都産業大学論集』17 号(4), pp.226-252
- 角井俊樹(1989).「イタリアにおける言語統一の過程(2)」『京都産業大学論集』18 号(3), pp.309-332
- 角井俊樹(1990).「イタリアにおける言語統一の過程(3)」『京都産業大学論集』19 号(3), pp.342-370
- 糟谷啓介(1985).「16 世紀イタリア語の＜言語問題＞」『一橋研究』10 巻, 3 号, pp.19-35 http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/6155/kenkyu0100300190.pdf
- 糟谷啓介(2016).「イタリアの「言語問題」における言語と文体の概念」『言語社会：一橋大学大学院言語社会研究科紀要』10 号, pp.364-386 http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/28136/gensha0001003860.pdf
- 糟谷啓介(2019).「参照枠としてのイタリアの「言語問題」」『言語社会：一橋大学大学院言語社会研究科紀要』13 号, pp.456-440 http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/30311/gensha0001304560.pdf
- 菅田茂昭(1980).「イタリア言語学(1939-1979)」『イタリア学会誌』28 巻, pp.147-156 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/28/0/28_KJ00003717601/_pdf/-char/ja
- 菅田茂昭(1981).「『ヴェローナの謎』と『カプアの判決文』」『ロマンス語研究』13/14 合併号, pp.110-113 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/013-014/studrom_013-014_009.pdf
- 菅田茂昭(1993).「L.B.Alberti とイタリア語の最初の文法書」『ロマンス語研究』26 号, pp.15-18 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/026/studrom_026_002.pdf
- 菅田茂昭(1994).「M.バルトリ生誕 120 年と空間言語学」『ロマンス語研究』27 号, pp.73-80 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/027/studrom_027_008.pdf
- 中川光(1992).「宮廷語論の諸相：Trissino と Castiglione」『イタリア学会誌』42 巻, pp.223-243 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/42/0/42_KJ00003738479/_pdf/-char/ja
- 中川光(1997).「Dialogo delle lingue と言語問題」. 『荒谷次郎先生退官記念号：AULA NUOVA、イタリア語の言語と文化』創刊号, 大阪外国語大学イタリア語研究室刊行, pp.1-16
- 野上素一(1978).「リソルジメント時代の文学者・言語学者、ニッコロ・トンマセオ」. 阿部史郎編.『リソルジメント文化研究』京都産業大学外国語学部イタリア語研究所発行, pp.26-38

- 深草真由子(2022).「ジュンティ書店のエディションとボッカッチョの言語」『イタリア学会誌』72 巻, pp.1-23 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/72/0/72_1/_pdf/-char/ja
- ボンファンテ G, 野上素一(1970).「イタリア語論」『イタリア学会誌』18 巻, pp.8-21 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/18/0/18_KJ00003717412/_pdf/-char/ja

13. 語用論

- 古浦敏生(1968).「イタリア語における比喩表現＜特集＞」『広大言語』8 巻, pp.1-3 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/46285/files/14796
- 古浦敏生(1974).「イタリア語における強調表現」『ニダバ(NIDABA)』3 巻, pp.25-27 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44704/files/37959
- 鈴木信吾(2001).「イタリア語とルーマニア語の語順について：語用論的視点からその無標性を探る」『東京音楽大学研究紀要』25 巻, pp.103-117 https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/record/806/files/KJ00004190220.pdf
- 土肥篤*(2019).「Le Particelle Discorsive in CP. Analisi di Tanto」『イタリア学会誌』69 巻, pp.73-93 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/69/0/69_73/_pdf/-char/ja
- 土肥篤(2022).「«mica»再考：心態詞と談話について」『イタリア学会誌』72 巻, pp.25-45 https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/72/0/72_25/_pdf/-char/ja
- 富永翠(2006).「イタリア語直説法未来の＜命令＞＜勧誘＞について」『東京外国語大学記述言語学論集』1 号, pp.122-129 http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/90625/1/Toyonaga.pdf

14. 辞書　※年代順

(ア) 伊和辞典

- 野上素一.編. (1981). 『新伊和辞典』白水社.
- 池田廉, 西村暢夫, 郡史郎, 在里寛司, 米山喜晟.編. (1999). 『伊和中辞典』第 2 版・改訂新版, 小学館

- 辞書については、特にこだわりがなければこれと下の『和伊中辞典』を選んでおけば問題ない。電子辞書や iOS 向けの辞書アプリで利用できるのもこれ。

(イ) 和伊辞典

- 下位英一.編. (1996). 『和伊辞典』東京大学書林
- 西川一郎, 和田和彦. (2008). 『和伊中辞典』第 2 版, 小学館

(ウ) 伊和・和伊辞典

- 下位英一, 坂本鉄男.編. (1979). 『イタリア語小辞典』東京大学書林

- 郡史郎, 池田廉.編. (2001). 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館
- 藤村昌昭.監修, 三省堂編集所.編. (2003). 『デイリー日伊英・伊日英辞典』三省堂
- 郡史郎, 池田廉.編. (2008). 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典：ハローキティー版』小学館
- 秋山余思.監修, 高田和文, 白崎容子, 岡田由美子, 秋山美津子, マリーサ・ディ・ルッソ, カルラ・フォルミサーノ.編. (2011). 『プリーモ伊和辞典：和伊付き』白水社
- 藤村昌昭.監修, 杉本裕之, 谷口真生子.編. (2013). 『デイリーコンサイス伊和・和伊辞典』三省堂
- 杉本裕之, 谷口真生子.監修, 三省堂監修所.編. (2020). 『ベーシッククラウン伊和・和伊辞典』三省堂

15. その他

(ア) 書評・資料紹介

- 秋山余思(1955).「言語に関するマンゾーニの諸論文について」『イタリア学会誌』4 巻, pp.92-95
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/4/0/4_KJ00003717835/_pdf/-char/ja
- 秋山余思(1967).「Franca Brambilla Ageno：Il Verbo nell'italiano antico, Ricerche di sintassi, Milano-Napoli, Riccardo Ricciardi Editore, 1964, pp.532」『イタリア学会誌』15 巻, pp.123-126
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/15/0/15_KJ00003717365/_pdf/-char/ja
- 秋山余思(1983).「Anna Laura Lepschy e Giulio Lepschy, LA LINGUA ITALIANA, storia, varietà dell'uso, grammatica, Bompiani, Milano, 1981」『イタリア学会誌』32 巻, pp.117-124
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/32/0/32_KJ00003717684/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1973).「イタリア語独習の手引き」『ニダバ(NIDABA)』2 巻, pp.71-72
  https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44693/files/29310
- 古浦敏生(1983).「デュボワ、他著『言語学辞典』Dubois, J. e al., Dizionario di linguistica, Edizione italiana, a cura di I. L. Corvetto e L. Rosiello, Bologna, Zanichelli, 一九七九、P.三六七」『イタリア学会誌』32 巻, pp.125-130
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/32/0/32_KJ00003717685/_pdf/-char/ja
- 長神悟(1992).「Manlio Cortellazzo-Paolo Zolli：Dizionario etimologico della lingua italiana. Bologna, Zanichelli, 1979-1988. 1/A-C, pp. xxviii+308, 2/D-H, pp. xx+ (309-) 536, 3/I-N, pp. xxii+ (537-) 816, 4/O-R, pp. xxii+ (817-) 1114, 5/S-Z, pp. xx+ (1115-) 1470」『イタリア学会誌』42 巻, pp.244-257
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/42/0/42_KJ00003738480/_pdf/-char/ja
- ミリオリーニ B, バルデッリ I, 岩倉具忠(1971).「イタリア語小史」『イタリア学会

誌』19 巻, pp.99-113
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/19/0/19_KJ00003717437/_pdf/-char/ja

- ロフストゲルハルト, 藤村昌昭(1978).「イタリアにおける姓名の起源」『イタリア学会誌』26 巻, pp.116-127
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/26/0/26_KJ00003717566/_pdf/-char/ja

(イ) 翻訳

- デ・マウロトゥリオ, 岩倉具忠(1981).「ソシュールと現代言語学の動向」『イタリア学会誌』30 巻, pp.1-7
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/30/0/30_KJ00003717638/_pdf/-char/ja
- 長神悟, Tullio De Mauro.(2006).「Dizionari tra teorie e pratica」『イタリア学会誌』56 巻, pp.1-15
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/56/0/56_KJ00004401023/_pdf/-char/ja

(ウ) 研究動向

- 秋山余思(1998).「《イタリア学会誌》50 年間におけるイタリア語学研究の動向：（その１）」『イタリア学会誌』48 巻, pp.341-359
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/48/0/48_KJ00003717997/_pdf/-char/ja
- 古浦敏生(1999).「『イタリア学会誌』50 年間におけるイタリア語研究の動向（その２）（わが国最近 50 年間のイタリア研究）」『イタリア学会誌』49 巻, pp.353-368
https://www.jstage.jst.go.jp/article/studiitalici/49/0/49_KJ00003718048/_pdf/-char/ja

(エ) その他

- 古浦敏生(1990).「サバティーニ教授の『イタリア語文法講義』ノート」『ニダバ(NIDABA)』19 巻, pp.86-90 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44725/files/44289
- 古浦敏生(2005).「サバティーニ教授の『イタリア語史講義』ノート」『ニダバ(NIDABA)』18 巻, pp.60-63 https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/44722/files/31758
- 古浦敏生(1983).「イタリア語における冠詞の問題点」『ロマンス語研究』14/15 合併号, pp.48-52 http://sjsrom.ec-net.jp/studrom/015-016/studrom_015-016_005.pdf

外国語文献

1. 音声学

- Battisti, C. (1930). Aspirazione etrusca e gorgia toscana. *Studi Etruschi,* vol. IV, pp.253-255
- Bertinetto, P. M. e Magno Caldognetto, E. (1993). Ritmo e intonazione. in Sobrero A. A. (ed.), *Introduzione all'italiano contemporaneo: Le strutture,* pp.141-192, Bari, La Terza.
- Canepari, L. (1985). *L'intonazione.* Napoli, Linguori Editore.
- Farnetani, E. & Kori, S. (1990). Rhythmic structure in Italian noun phrases: a study on vowel durations. *Phonetica,* vol 47, pp.50-65
- Giacomelli, R. (1954). Le palatali sibilanti italiane e la loro trascrizione fonetica. *Lingua nostra,* vol. XV, pp.76-84
- Hague, A. Camilli. (1965). *Pronuncia e grafia dell'italiano.* rivenduta a cura di P. Fiorelli. Firenze.
- Hall. R. (1949). A note on "gorgia toscana". *Italica,* vol. XXVI, pp.65-71
- Kori, S. & Farnetani, E. (1983). Acoustic manifestation of focus in Italian. *Quaderni del Cenrto per le Ricerche di Fonetica,* vol. 2, pp.323-338
- Martinet, A. (1968). *Economia dei mutamenti fonetici.* Torino. (trad. dell'ed. franc. *Économie des changements phonetiques.* Bern, 1955)
- Merlo, C. (1950). Gorgia toscana e sostrato etrusco. *Italica,* vol. XXVII, pp.253-255
- Merlo, C. (1953). Ancora della gorgia toscana. *Italica,* vol. XX, pp.167
- Migliorini, B. (1954). "Postilla" a Giacomelli, 1954. *Lingua nostra,* vol. XV, pp.84-85
- Muljačić, Ž. (1976). Per lo studio degli aspetti microfonotattici dell'italiano regionale. *Studi di fonetica e fonologia; atti del Convegno internazionale di studi (1973, Padova),* pp.237-244, Roma.
- Santangelo, A. e Vennemann, T. (1976). Italian Unstressed Pronouns and Universal Syantax. *Italian Linguistics,* 2, pp.37-43. Lisse, The Peter De Ridder Press.
- Tagliavini, C. (1965). *La corretta pronuncia italiana.* Bologna.

2. 音韻論

- Castellani, A. (1956). Fonotipi e fonemi in italiano. *Studi di filologia italiana,* vol. XIV, pp.435-453
- Castellani, A. (1980). Postilla a Castellani, 1956. *Saggi di linguistica e filologia italiana e romanza (1946-1976), tomo 1,* pp.64-69. Roma
- Fiorelli, P. (1955). Le palatoalveolari come fonemi. *Lingua nostra,* vol. XVI, pp.85-87
- Franceschi, T. (1964). La scrittura della zeta e la struttura fonematica dell'italiano. *Bollettino dell'Atlante Linguistico Italiano,* vol. IX-X, pp.36-50
- Lepschy, G. C. (1964). Note sulla fonematica italiana. *L'Italia dialettale,* Vol. XXVII, pp.53-67
- Mioni, A. M. (1973). *Fonematica contrastiva.* Bologna.
- Muljačić, Ž. (1972). *Fonologia della lingua italiana.* Bologna.

- Tekavčić, P. (1972). *Grammatica storica dell'italiano,* vol. 1: Fonematica. Bologna.

3. 形態論

- Ambrosini, R. (1978). *Verbo in Enciclopedia dantensca.* diretta da U. Bosco. Appendice, Roma, Istituto della Enciclopedia italiana.
- Bonomi I. (1978). Alcune forme verbali nella grammatica di P. F. Giambullari. *Studi di grammatica italiana,* vol.7, pp.375-397.
- Carlier, A. (2007). From preposition to article: The grammaticalization of the french partitive. *Studies in Language,* 31 (1), pp.1-49. Amsterdam, John Benjamins Publishing Company.
- Chini, M. (1995). *Genere grammaticale e acquisizione: Aspetti della morfologia nominale in italiano L2.* Milano, Francoangeli.
- Coniglio, M. (2008). Modal particles in Italian. *University of Venice Working Papers in Linguistics,* 18, pp.91-129.
- Dardano, M. (1963). *La formazione delle parole nell'italiano di oggi.* Roma.
- Genot, G. (1978). *Grammatica trasformazionale dell'italiano.* Napoli, Liguori Editore.
- La Fauci, N. (1988). *Oggetti e soggetti nella formazione della morfosintassi romanza*, Pisa, Giardini editori e stampatori.
- Nencioni, G. (1989). Un caso di polimorfia dellla lingua letteraria dal sec. XIII al XVI (1954). *Saggi di lingua antica e moderna.* Torino, Rosenberg&Sellier.
- Tekavčić, P. (1980). *Grammatica storica dell'italiano. Morfosintassi.* Bologna, il Mulino.

4. 語彙論

- Cinque G. (1976). Mica. *Annali della Facoltà di Lettere e Folosofia dell'Università di Padova,* vol. 1, pp.101-112.
- Elizabetta Ježek (2005). *Lessico: classi di parole, strutture, combinazioni*. il Mulino

5. 統語論

- Alinei, M. (1984). Il sistema allocutivo dei saluti in Italiano, Inglese e Olandese. *Lingua e dialetti: struttura, storia e geografia.* Bologna, il Mulino. pp.23-36
- Beccaria, G. L. (1970). Cane Cancelli, Eleonora et al. (a cura di). *Metrica e sintassi nella poesia di Giovanni Pasoli; corso di storia della lingua italiana.* Torino, G. Gianppichelli.
- Benincà, P. (1980). Nomi senza articolo. *Rivista di Grammatica Generativa,* 5, pp.51-62. Padova, Unipress.
- Bentley, D. (2006). *Split intrasitivity in Italian.* Berlin, Mouton de Gruyter
- Bertinetto, P. M. (1986). *Tempo, aspetto e azione nel verbo italiano: Il sistema dell'indicativo.*

Firenze, Accademia della Crusca.

- Burzio, L. (1988). *Italian Syntax: A Government-Builiding Approach,* Reidel, Dordrecht.
- Cardinaletti A. (2015). Italian verb-based discourse particles in a comparative perspective. in Bayer J., Hinterhölzl R. & Trotzke A. (a cura di). *Discourse-oriented Syntax.* Amsterdam, John Benjamins. pp.71-91
- Corti, M. (1954). Studi sulla sintassi della lingua poetica avanti lo Stilnovo. *Atti e Memorie dell' Accademia Toscana di Scienze e Lettere,* La colombaria, vol. XVIII, Nuova serie-IV. Firenze.
- D'Achille, P. (1990). *Sintassi del parlato e tradizione scritta della lingua italiana: analisi di testi dalle origini al secolo XVIII.* Roma, Bonacci.
- Ferrari, A. e Zampese, L. (2016). *Grammatica: parole, frasi, testi dell'italiano*. Roma, Carocci.
- Fornaciari R. (1881). *Sintassi Italiana dell'Uso Moderno.* Firenze, Sansoni.
- Franca Brambilla Ageno. (1964). *Il verbo nell'italiano antico: ricerche di sintassi*. Ricciardi. pp.532
- Graffi, G. (1994). *Sintassi.* Bologna, il Mulino.
- Hall Jr., R. A. (1971). *La struttura dell'italiano.* Roma.
- Herczeg, G. (1959). Sintassi delle proposizioni subordinate nella lingua italiana: studio di grammatica descrittiva. *Ara linguistica Acc. scient. hungar,* vol. IX.
- Leone, A. (1986). *Complementi di grammatica italiana.* Firenze, Sansoni.
- Lo Cascio, V. (1970). *Strutture pronominali e verbali italiane,* Bologna, Zanichelli.
- Lo Duca, M. G. (1991). Ipotesi sull'articolo. *Italiano & oltre,* vol. VI (5), pp.240-241. Firenze, La Nuova.
- Lo Duca, M. G. (1994). Il 'noto' e il 'nuovo' degli articoli. *Italiano & oltre,* vol. IX (5), pp.273-275. Firenze, La Nuova.
- Lo Duca, M. G. (1995). Sono due o tre i tipi di articolo?. *Italiano & oltre,* vol. X (1), pp.25-27. Firenze, La Nuova.
- Mourin, L. (1956). Il condizionale passato. *Lingua nostra.* vol.17.
- Patota, G. (1990). Serianni, L. (presentazioni di). *Sintassi e storia della lingua italiana: tipologia delle frasi iterrogative.* Roma, Bulzoni.
- Pietrandrea, Paola. (2005). *Epistemic Modality: Functional Properties and the Italian System.* Amsterdam/Philadelphia, John Benjamins.
- Porena, Manfredi. (1938). Sull'uso degli ausiliari essere e avere in italiano. *Italia Dialettale,* vol.14, pp.1-12.
- Regula, M. & Jernej, J. (1975). *Grammatica italiana descrittiva.* Bern, Francke.
- Renzi, L. (1976). Grammatica e storia dell'articolo italiano. *Studi di grammatica italiana di consultazione,* vol.5, pp.5-42
- Rizzi, L. (1982). *Issues in Italian Syntax*. Foris, Dordrecht.
- Sabatini et al. (2011). Francesco Sabatini, Carmela Camodeca, Cristiana De Santis. *Sistema e testo; Dalla grammatica valenziale all'esperienza dei testi*. Loescher

- Salvi, G. (1969). *La frase semplice.* in Renzi, L. (cur.).
- Schena, Leo, Michele Prandi. e Marco Mazzoleni. (eds.) (2002). *Intorno al congiuntivo.* Bologna, il Mulino.
- Soldani, A. (1999). *Attraverso l'ottava: Sintassi e retorica nella «Gerusalemme liberata».* Lucca, Pacini Fazzi.
- Tuttle, E. F. (1986). The spread of ESSE as a universal auxiliary in Central Italo-Romance. *Medievo Romanzo,* vol.11, pp.229-287.

6. 意味論

- Centineo, Giulia. (1995). The distribution of si in Italian transitive/inchoative pairs. in Mandy Simons & Teresa Galloway (eds.), *Semantics and Linguistic Theory*, vol. 5, pp.54-71. Ithaca, N.Y.: Cornell University.
- de' Paratesi, N. G. (1969). *Le brutte parole: semantica dell'eufemismo.* Milano, Mondadori.
- Glendening, P. J. T. (1980). *Cassell's Colloquial Italian: A Handbook of Idiomatic Usage.* London, Cassell.
- Goggio, Ch. (1922). *The use of the Conditional Perfect for the Conditional Present in Italian.* PMLA, vol.37
- Korzen, I. (1996). *L'articolo italiano fra concetto ed entità*. Etudes Romanes 36. Copenhagen, Museum Tusculanum Press.
- Pescarini, D. & Penello, N. (2012). L'avverbio "mica" fra widening sematico e restrizioni sintattiche. in Bertinetto P. M., Bambini V. & Ricci I. (a cura di). *Linguaggio e cervello/ Semantica.* Roma, Bulzoni.

7. 語史

- Castellani, A. (1952). *Nuovi testi fiorentini del Dugento.* con introduzione, trattazione linguistica e glossario a cura di Arrigo Castellani. Firenze, Sansoni.
- Coletti, V. (2012). *Eccessi di parole: sovrabbondaza e intemperanza lessicale in italiano del Medioevo a oggi*. Firenze, Franco Cesati.
- De Mauro, T. (1963). *Storia linguistica dell'Italia unita.* Bari.
- Devoto, G. (1951). Protostoria del fiorentino. *Lingua nostra,* vol. XII, p.30
- Devoto, G. (1987). *Avviamento alla etimologia italiana.* Firenze.
- Felici, A. (2020). Il Quattrocento e il Cinquecento. in G. Frosini (diretta da), *Storia dell'italiano: La lingua, i testi,* pp.163-265. Roma, Salerno Editrice.
- Fogarasi, M. (1969). *Grammatica Italiana del Novecento.* Roma, Bulzioni.
- Lepschy, Anna. Laura. e Lepschy, Giulio. (1981). *La Lingua Italiana: storia, varietà dell'uso, grammatica.* Bompiani, Milano.

- Maiden, M. (1998). *Storia linguistica dell'italiano.* Bologna, il Mulino.
- Manni, P. (1979). Ricerche sui tratti fonetici e morfologici del fiorentino quattrocentesco. *Studi di grammatica italiana*, vol.8, pp.116-171
- Migliorini, B. (1992). *Storia della lingua italiana.* Firenze, Sansoni Editore.
- Migliorini, B. & Baldelli, I. (1965). *Breve Storia della Lingua Italiana,* 1ª ristampa rivenduta e corretta. Firenze.
- Pozzi M. (1988). *Discussioni linguistiche del Cinquecento.* Torino, Utet.
- Schiaffini, A. (1953). *Momenti di storia della lingua italiana.* Roma.
- Tagliavini, C. (1968). *Storia della linguistica.* Bologna.
- Tagliavini, C. (1969). *Le origini delle lingue neolatine.* Bologna.
- Trovato, P. (1994). *Storia della lingua italiana: Il primo Cinquecento.* Bologna, il Mulino.
- Vincent, N. B. (1982). The development of the auxiliaries habere and essere in Romance. in Vincent, N. & Harris, M. (eds), *Studies in the Romance Verb,* pp.71-96. London, Croom Helm.

8. 方言学

- ASTAT. (2004). *Barometro linguistico dell'Alto Adige.*
- Atzori, M. T. (1953). *Glossario di sardo antico (GSA).* Parma, Scuola tipografia benedettina.
- Belloni, Silvano. (1991). *Grammatica veneta.* Padova, Editrice La Gliverna e Libreria Editrice Zielo.
- Benincà, P. & Vanelli, L. (1982). Appunti di sintassi veneta. in Cortelazzo, M (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.4. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Blasco Ferrer, E. (1984). *Storia linguistica della Sardegna.* Tübingen, Max Niemeyer.
- Blasco Ferrer, E. (1994). *Ello Ellus: Grammatica sarda.* Nuoro, Poliedoro edizioni.
- Bonomi, I. (1982). *La grammatica di Pierfrancesco Giambullari: saggio di un'analisi delle forme verbali del fiorentino vivo*. Firenze, Olschki.
- Calabrese, A. (1984). Una differenza sintattica fra il salentino e l'italiano. *Rivista Italiana di Dialettologia,* vol.8. Bologna, Cooperativa Libreria Editore.
- Calabrese, A. (1992). The lack of infinitival clauses in Salentino: A synchronic analysis. *Theoretical analysis in Romance Linguistics.* Amsterdam, John Benjamins.
- Calabrese, A. (1993). The sentential complementation of salentino: A study of a language without infinitival clauses. *Syntactic theory and the dialects of Italy.* Torino, Rosenberg&Sellier.
- Canepari, L. (1979). I suoi dialettali e il problema della loro trascrizione. in Cortelazzo, M (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.1. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Castellani, A. (1980). Italiano e fiorentino argenteo, *Saggi linguistica e filologia italiana e romanza (1946-1976),* vol. I, pp.17-35. Roma, Salerno Editrice.
- Corda, F. (1989). *Saggio di grammatica campidanese.* Sala Bolognese, Arnaldo Forni Editore.

- Cortellazzo, M. (1981). Interpretazione di carte linguistiche. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.3. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- De Mauro & Lodi, M. (1993). *Lingua e dialetti.* Roma, Riuniti.
- Devoto, G. & Giacomelli, G. (1972). *I dialetti delle regioni d'Italia.* Firenze.
- Dionisotti, C. (1980). Machiavelli e la lingua fiorentina. *Machiavellerie: Storia e fortuna di Machiavelli,* pp.267-363. Torino, Einaudi.
- Guarnerio, P. E. (1906). L'antico campidanese dei sec. XI-XIII secondo <Le antiche carte volgari dell'archivio arcivescovile di Cagliari>. *Studj romanzi,* vol. IV, pp.189-259.
- Iandolo, C. (1994). *'A lengua 'e Pulecenella. Grammatica Napoletana.* Napoli, Franco Di Maurio Editore.
- Kramer, Johannes. (1986). Influssi greci sui dialetti italiani. *Elementi stranieri nei dialetti italiani (Atti del XIX Convegno del C.S.D.I., Ivrea 17-19 ottobre 1984),* vol.1. Pisa, Pacini.
- Lepschy, G. (1983). Clitici veneziani. in Holtus Gunter e Metzelti, Michael (ed.), *Linguistica e dialettologia veneta.* Tübingen.
- Lepschy, G. (1984). Costruzioni impersonali con SE in veneziano. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.6. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Marcato, G. (1984). Il lessico dialettale fra tradizione ed innovazione. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.6. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Marcato, G. (1988). Una grammatica dei dialetti veneti?. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.8. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Miglietta, Annarita. (2003). *Il parlante e l'infinito: Modalità e epistemica e deontica nel mezzogiorno fra dialetto e italiano.* Galatina, Congedo Editore.
- Pellegrini, G. B. (1979). Introduzione alla toponomastica. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.1. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Pittau, M. (2005). *Grammatica del sardo illustre.* Sassari, Carlo Delfino.
- Poletto, C. (2000). *The higher functional field: evidence from Nothern Italian dialects.* Oxford, Oxford University Press.
- Rohlfs, G. (1968). *Grammatica storica della lingua italiana e dei suoi dialetti*. *Morfologia*. Torino, Einaudi
- Rohlfs, G. (1972). La perdita dell'infinito nelle lingue balcaniche e nell'Italia meridionale. *Studi e ricerche su lingua e dialetti d'Italia.* Firenze, Sansoni.
- Rohlfs, G. (1980). *Calabria e Salento.* Ravenna, Longo Editore.
- Rohlfs, G. (1985). La sostituzione dell'infinito nel salento e in calabria (vogghiu cu bbegnu, voggghiu a sacciu, vogghiu mu vaju). *Latinità ed ellenismo nel mezzogiorno d'Italia studi e ricerche (Dalla Magna Grecia alla Grecia italica).* Chiaravalle, Frama Sud.
- Romano, A. (2001). *Lu Nanni Orcu e altri racconti salentini.* Nardò, Besa Editrice.

- Schiaffini, A. (1929). Influssi dei dialetti centro-meridionali sul toscano e sulla lingua letteraria. *L'Italia Dialettale,* vol.5, pp.1-31
- Schmid, S. (1998). Tipi sillabici nei dialetti dell'Italia settentrionale. Ruffino, G. (ed.), *Atti del XXI congresso internazionale di linguistica e filologia romanza -Centro di studi filologici e linguistici siciliani* Università di Palermo 18-24 settembre 1995, vol.5. Niemeyer, Tübingen.
- Skubic, Mitja. (1986). Passato prossimo e passato remoto nei dialetti veneti. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.8. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Sobreo, A. A. & Immacolata Tempesta. (2002). *Puglia.* Roma-Bari, Editori Laterza.
- Solmi, A. (1905). Le carte volgari dell'archivio arcivescovile di Cagliari: Testi Campidanesi dei secoli XVI-XVIII. *Archivio storico italiano,* vol.35, pp.277-330.
- Verra, Roland. (2000). *La minoranza ladina.* Istituto Pedagogico Ladino.
- Verra, Roland. (2003). *Plurilinguismo e Scuola Ladina.* Intendenza Scolastica Ladina.
- Virdis, M. (1978). *Fonetica del dialetto sardo campidanese.* Cagliari, Edizione della Torre.
- Wagner, M. L. (1938-1939). Flessione nominale e verbale del sardo antico e moderno. *Italia dialettale,* vol. XIV, pp.93-107. vol. XV, pp.1-30.
- Wagner, M. L. (1984). *Fonetica storica del sardo: Introduzione, traduzione e appendice di Giulio Paulis.* Cagliari, Gianni Trois.
- Zamboni, A. (1979). La caratteristiche essenziali dei dialetti. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.1. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.
- Zolli, P. (1979). Il lessico dialettale e le difficoltà dell'etimologia. in Cortellazzo, M. (ed.), *Guida ai dialetti veneti,* vol.1. Padova, Cooperativa Libreria Editrice degli Studi dell'Università di Padova.

9. 文体論・修辞学

-
-

10. 対照言語学・翻訳論

- Berruto, G., Moretti, B. e Schmid, S. (1990). Interlingue italiane nella Svizzera tedesca: Osservazioni generali e note sul sistema dell'articolo. in Banfi, E. & Cordin, P. (a cura di), *Storia dell'italiano e forme dell'italianizzazione: Atti del XXIII Congresso Internazionale di Studi,* Torento-Rovereto 18-20 maggio 1989, pp.203-228. Roma, Bulzoni.
- Cardinaletti, A. (2011). German and Italian modal particles and clause structure. *Linguistic Review,* 28 (4), pp.493-531.
- Folli, Raffaella (2002) *Constructing telicity in English and Italian*. Oxford, University of Oxford Ph.D. dissertation.

- Lausberg, H. (1976). *Linguistica romanza.* vol. 1. Milano
- Mackenzie, I. E. (2006) *Unaccusative verbs in Romance languages*. London, Palgrave Macmillan.
- Mancarella, G. B. (1978). *Linguistica romanza.* Bologna.
- Renzi, L. & Vanelli, L. (1982). *I pronomi soggetto in alcune varietà romanze.* scritti in onore di G. B. Pellegrini. Pisa, Pacini. pp.120-145

11. 言語教育学

- Katerinov, K. (1992). *La lingua italiana per stranieri.* Perugia, Edizioni Guerra.
- Scaglioso, A. (2005). La valutazione della abilità di produzione scritta e di produzione orale. in Vedovelli, M. (a cura di), *Manuale della certificazione dell'italiano L2.* Roma, Carocci. pp.217-288.

12. 言語観・言語論・語学研究史

- Andorno, Cecilia. (1999). *Dalla grammatica alla linguistica.* Torino, Paravia.
- Auerbach, E. (1963). *Introduzione alla filologia romanza.* Torino.
- Bembo, P. (1978). Prose della volgar lingua, I-XIII. in Pozzi, M. (a cura di), *Trattatisti del Cinquecento.* Milano-Napoli.
- Lepschy, G. (1978). *Saggio di Linguistica Italiana.* Bologna, il Mulino.
- Manni, P. (2016). *La lingua di Boccaccio.* Bologna, il Mulino.
- Motolese, M. (2002). Il dibattito linguistico italiano, in Serianni (a cura di), *La lingua nella storia d'Italia.* Roma-Milano, Società Dante Alighieri-Libri Scheiwiller.
- Nencioni, G. (1946). *Idealismo e realismo nella scienza del linguaggio.* Firenze.
- Palermo, M. (2020). *Linguistica italiana.* Bologna, il Mulino.
- Pozzi, M. (1989). Il pensiero linguistico di B. Castiglione. *Lingua, cultura, società.* Alessandria.
- SLI, Società Linguistica Italiana. (1997). Renzi, L. e Michele, A. (a cura di). *La linguistica italiana fuori d'Italia: studi, istituzioni.* Roma, Bulzoni.
- Vitale, M. (2007). *L'officina linguistica del Tasso epico.* Milano, Edizioni universitarie di Lettere Economia Diritto.

13. 語用論

- De Mauro, T. (1978). *Linguaggio e società nell'Italia d'oggi.* Torino.
- De Mauro, T., Mancini, F. e Vedovelli, M. (1993). *Lessico di frequenza dell'italiano parlato.* Milano, ETASLIBRI.
- Devoto, G. (1974). *Il linguaggio d'Italia.* Milano, Rizzoli.
- Korzen, I. (2003). Determinazione nominale e incorporazione in italiano: Un approccio

pragmatico-testuale. *Cahiers Ferdiand de Saussure,* 56. pp.35-65. Genève, Librairie Droz.

- Manzini, R. (2015). Italian adverbs and discourse particles. in Bayer J., Hinterhölzl R. & Trotzke A. (a cura di). *Discourse-oriented Syntax.* Amsterdam, John Benjamins. pp.93-120.
- Praloran, M. (2009). *Le lingue del racconto: Studi su Boiardo e Ariosto.* Roma, Bulzoni.
- Thaler, V. (2016). Itaian "mica" and its use in discource: An interactional account. *Journal of pragmatics,* Vol.103 pp.49-69.

14. 辞書

(ア) イタリア語辞典

- Ceppellini, V. (1962). *Dizionario grammaticale per il buon uso della lingua italiana,* 4ª ed., Novara.
- De Felice, E. & Duro, A. (1976). *Dizionario della lingua e della civiltà italiana contemporanea.* Palumbo.
- De Mauro, T. (2000). *Il dizionario della lingua italiana.* Milano, Paravia.
- Devoto, G. & Oli, G. C. (1987). *Dizionario della lingua italiana.* Firenze.
- Garzanti, A. (1974). *Dizionario Garzanti della lingua italiana,* 12ª ed. Milano
- Palazzi, F. (1975). *Novissimo dizionario della lingua italiana,* ed. a cura di G. Folena. Milano
- Zingarelli, N. (1983). *Il nuovo Zingarelli －vocabolario della lingua italiana,* 11ª ed. Bologna.

(イ) 方言辞典

- Angiolini, F. (1897). *Vocabolario milanese-italiano.* Torino, G. B. Paravia.
- Aspromonte, Luigi. (2002). *Vocabolario Napoletano-Italiano, Italiano-Napoletano.* Napoli, LIDIAL ITALIA.
- Boerio, G. (1856). *Dizionario del dialetto veneziano.* Venezia, Premiata Tipografia di Giovanni Cecchini Edit; Giunti Firenze, 1993.
- Piccio, G. (1989). *Dizionario Veneziano-Italiano.* Venezia, Libreria Emiliana Editrice; Venezia, Filippi Editore, 1989

(ウ) 言語学辞典

- Dubois, J. ed altri. (1983). *Dizionario di linguistica,* Bologna.
- Gabrielli, A. (1961). *Dizionario linguistico moderno,* 3ª ed. Milano.
- Lo Duca, M. G. (2023). *Dizionario di base della grammatica italiana*. Roma: Carocci.

(エ) その他

- Branca, V. (1995). *Dizionario critico della letteratura italiana,* 2ª ed. Torino, Utet.
- Marino, S. & Wada, Y. (2020). *il dizionario di Giapponese: Dizionario Italiano- Giapponese,* Kindle ed. Zanichelli.
- Wagner, M. L. (1960-1964). *Dizionario etimologico sardo (DES).* Heidelberg, Carl Winter.

15. コーパス

- Bortolini, U., Tagliavini, C. & Zampolli, A. (1971), *Lessico di frequenza della lingua italiana contemporanea*, Milano, Garzanti.
- Laudanna, Alessandro *et al.* (1995), *Un corpus dell'italiano scritto contemporaneo dalla parte del ricevente*, in *JADT 1995.* III. Giornate internazionali di analisi statistica dei dati testuali, Consiglio nazionale delle ricerche (Roma 11-13 dicembre 1995), a cura di S. Bolasco *et al*., Roma, Cisu, 2 voll., vol. 1°, pp. 103-109.
- Rossini Favretti, Rema (2000), *Progettazione e costruzione di un corpus di italiano scritto: CORIS/CODIS*, in Ead. (a cura di), *Linguistica e informatica. Corpora*, *multimedialità e percorsi di apprendimento*, Roma, Bulzoni, pp. 39-56. https://corpora.ficlit.unibo.it/coris_ita.html
- Baroni, Marco *et al.* (2004), *Introducing the la Repubblica corpus. A large*, *annotated*, *TEI(XML)-compliant corpus of newspaper Italian*. Proceedings of the 4th international conference on language resources and evaluation LREC (Lisbon, May 26-28 2004), edited by M.T. Lino *et al.*, Paris, ELRA European Language Resources Association, pp. 1771-1774. https://corpora.dipintra.it/
- Baroni, Marco *et al.* (2009), *The WaCky wide web. A collection of very large linguistically processed web-crawled corpora*, «Language resources and evaluation» 43, 3, pp. 209-231. https://wacky.sslmit.unibo.it/doku.php?id=start
- *Mauri, Caterina, Silvia Ballarè, Eugenio Goria, Massimo Cerruti & Francesco Suriano, (2019) "KIParla corpus: a new resource for spoken Italian". In: Bernardi, Raffaella, Roberto Navigli & Giovanni Semeraro (eds.),* Proceedings of the 6th Italian Conference on Computational Linguistics CLiC-it. https://kiparla.it/search/
- CLIPS: http://www.clips.unina.it/
- Cresti, Emanuela & Moneglia, Massimo (a cura di) (2005), *C-ORAL-ROM: Integrated reference corpora for spoken Romance languages*, Amsterdam - Philadelphia, John Benjamins.
- Spina Stefania (2005), *Il Corpus di Italiano Televisivo (CiT): struttura e annotazione*, in *Tradizione e innovazione. Il parlato. Teoria*, *corpora*, *linguistica dei corpora*. Atti del VI convegno della Società Internazionale di Linguistica e Filologia Italiana (Gerhad-Mercator Universität, Duisburg, 28 giugno - 2 luglio 2000), a cura di E. Burr, Firenze, Cesati, pp. 413-426.